

平成30年度第2回上小地区小中学校教科用図書採択研究協議会 議事録

- 1 日 時 平成30年7月20日(金) 午前9時から12時まで
- 2 会 場 上田市教育委員会 第一会議室
- 3 出席者 峯村会長、辰野副会長、下村委員、小林委員、北沢委員、小山委員、龍野委員、
沓掛委員、菊池委員、依田委員、中垣委員
教科責任者(調査研究委員長) 小学校 図画工作 宮下、国語 宮澤、
社会 永井、理科 小宮山、生活 竹前、音楽 吉本、家庭科 渡邊、
保健 北垣内、算数 上野、中学校 道徳 高柳
市側出席者(事務局) 学校教育課 高木課長、横澤課長補佐、朝日担当幹
- 4 公開・非公開等の別 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開

協議事項等

- 1 開会
- 2 会長あいさつ

本日は、猛暑の中、第2回教科書採択研究協議会にご出席いただきまして大変有難うございます。さて教科書の採択につきましては、全ての児童生徒が共通して使用する教材でありますことから、学習指導要領に示された内容を一人一人に確実に定着させるため、検定を通過した各社の教科書の中から、より適した教科書を選定する必要があります。このようなことから今年度も教科書の採択方法につきましては、第一回協議会におきまして、各教科に調査研究委員会を設置し、調査研究を進める中で選定していくという方向・手順を決めていただきました。これを受け本日第2回の協議会を開催いたしました。今回は、各教科の調査研究委員長から調査研究の結果の報告を受け、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴しながら、選定作業を進めてまいりたいと考えております。児童生徒によりよい教科書を提供するという大事な使命をおびた会議でございます。皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

3 審議

<幹事長> それでは議事に入りたいと思います。議事進行につきましては会長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

<会長> それでは次第に沿いまして私のほうで議事を進めてまいります。市町村教育委員会の採択等について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(1) 市町村教育委員会の採択等について説明

<会長> 続きまして、(2) 調査研究報告及び教科書の選定についてであります。各教科の調査研究委員長から、調査表を基に、調査研究の結果報告をしていただき、それに対する質疑、討論を経たうえで、調査研究委員会の選定した1種類の教科書について多数決により決定するという手順を進めてまいります。

なお、可否同数の場合は、協議の経過を勘案したうえで、議長が選定することとなりますので、御承知おきいただきたいと思います。

選定の順番は、お配りした資料2の教科別発表順のとおりでお願いしたいと思います。

目安の時間はお示ししてありますが、途中で休憩を挟んで終わりが12時ということで約3時間程度かかる計算になります。長丁場の会議となりますが、何卒御協力をお願いします。

中学の道徳について、1時間とっている理由を事務局から説明をお願いします。

<事務局> 道徳の教科書につきましては、8社ございまして、より丁寧は説明が必要になるということで1時間とっており、小学校の時間よりは多目の時間をとってございます。小学校につきましては使用期間が1年ということでございますので、今使っている教科書の検証結果を中心に考えておりますので、それほど時間はいらないと考えております。1教科10分で説明は、その半分の予定です。

<会長> それでは、「図画工作」について担当していただきました、調査研究委員長、自席で結構ですので調査研究結果の報告をお願いします。

< 図画工作調査・研究委員長 > 本委員会では、日本文教出版社の「図画工作」を選定いたしました。

選定した理由につきましては、主に4つあります。他社の教科書（開隆堂）は、主に作品の写真を載せているのに対し、日文の教科書は全ての題材において子どもが活動に取り組んでいる写真をふんだんに掲載しているという点に着目しました。このことは、子どもが製作に関心を持つことや創意工夫をしていく上で非常に有効なのではないか、子どもの主体的な学びに通じる重要な資料になると考えました。

2点目ですが、日文の教科書は作家の作品等の芸術性の高いものも掲載されておりますが、技法面に重きを置かずに子ども目線に立った写真や言葉を多くして、製作する子供の思いを大切に構成していると感じます。長野県の教育で一番大事にしてきたのは、初めに子どもありきということかと考えます。そうした面からもとめてこの教科書は合致している。学習指導要領の指導上の配慮事項として示されている「児童が実現したい思いを大切にしながら」という部分や「児童が工夫して楽しめるテーマを」という部分と合致していると考えました。開隆堂は、少し技法に重きが置かれていて資料的な扱いとしてはとてもよい面もあるかと思いますが、子ども主体というより作品をつくることに重きが置かれていると考えました。

3つ目です。開隆堂が振り返りの部分で、単に「よいところをさがそう」としている記述が多い中、日文は、題材のねらいに即したキーワードが振り返りの部分で示されています。その題材でどのような「資質、能力」、「造形的な見方・考え方」を伸ばそうとしているのか明確にしていると感じました。このことから、より授業が見える教科書になっていると考えました。

4つ目であります。特別支援教育ということが盛んに言われるようになりましたが、日文の教科書の特徴として、ほぼ全題材が2～3ページの見開きになっていて見やすく構成されています。写真や資料の枠の形も非常にこだわられていて、色彩や情報量、マークによる表示なども配慮されており、特別な支援を必要としている子にもわかりやすく、ユニバーサルデザイン化への配慮が行き届いていると感じております。

以上の4点から、本委員会では日文出版の「図画工作」を選定いたしました。

< 会長 > ありがとうございました。それでは、ただいま報告いただきました「図画工作」につきまして、御協議をいただき、選定をしてまいりたいと思います。何か御意見、御質問はございますか。

< 委員 > 現場の先生の声聞いたことがありますか？

< 図画工作調査・研究委員長 > 子どもの活動の写真が載っているということで、子どもたちが様子が分かる点がいいという話が出ています。出来上りの作品だけだと見通しが持ちにくいという声がありました。

< 会長 > ほかに特にないようですので、選定に入ります。「図画工作」について、「日文」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いします。

全員挙手

< 会長 > それでは、賛成多数と認められますので、「図画工作」については、「日文」の教科書を選定することといたします。

< 国語・書写 調査・研究委員長 > 委員会としては、「国語」は光村図書を選定しました。継続になっています。最終的には光村・東書・教出、学図を比較しました。各社とも国語の基礎的基本的な力が習得されるよう系統的に単元が構成されていると考えています。その中で1の調査表の観点に沿って検討を進めました。調査表の7点につきまして説明させていただきます。

2（1）「文章の長さ、分量、難易の程度が、児童の発達段階に応じるよう配慮されているか。」についてですが、光村、東書の2社がより適切だと判断しました。特に分量においては、各社違いはありましたが、子ども達が読む早さ、理解する早さ、1時間で扱える分量などを考えていくとやはり、光村図書、東京書籍が優位であると考えております。

2（2）「学習への関心・意欲を喚起し、児童の心情や実態に即して言語の力を高める展開が多様に考えられる教材選定への配慮がなされているか。」ですが、各社とも様々な分野から題材を集めています

が、その中で、特に光村図書は子供達が興味関心を引くものであり、なおかつ子供達が知らない世界を広げていくように工夫されていると感じました。そのために国語の授業のみならず、社会や総合などその後の学習活動にも広げていける可能性も感じられました。

2 (3) 「児童の言語活動をふまえて、全体を通して主体的な学習を促す工夫がなされているか。」ですが、学校図書は、日常的に漢字を使えるものにするという点では、どちらかというと漢字そのものの意味を説明しているというように感じられます。従って漢字そのものを覚えることができても日常生活の場面で実際使えるものになっているのかという点で疑問を生じました。その点において光村図書は、新しく習う漢字、熟語 20~30 を使って物語が作れるような形になっています。このことによって漢字が日常生活の中で使えるようになっている点が工夫されていると考えました。

3 (1) 「単元の配列が、児童の言語生活や系統的な指導に照らして適切か。」についてですが、光村図書は、話す領域の学習において連続性が生まれやすい構成となっており子どもたちにとって扱いやすいと思います。活動に連続性が生まれ易く構成されている。例えば、3年生学習発表会の案内状を書こうという場面でどんな風にかこうかと話し合うという題材がありますが、秋に学習発表会が多い学校があったりしますが、季節的にも適していると感じました。

3 (2) 「単元相互の関連性や連続性が、有効に図られているか。」についてですが、学校図書が文学作品が少ないこと、学校図書と東京書籍が漢字辞典を指導する教材がないことが少し気になりました。また光村図書の説明的文章の扱い方においては学ぶべきことを最初の短い文章の教材で扱い、その後、長い文章の同様な説明的文章で学習していくというように2段構成になっている点が、非常に学習しやすく指導する側も使い易いと考えております。

3 (3) 「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各領域の調和がとれており、思考力や想像力が高められるよう配慮されているか。」ですが、光村図書と東京書籍は子ども達の発達段階に応じたものになっていると考えています。文章的にも疑問を持ちやすい点があり、学習問題を設定しやすく、さらに論理的思考力を高めたり、言語感覚を磨ける内容となっていると思います。学習問題を設定しやすいくことは、主体的対話的な学習を仕組む上で、適していると感じました。

3 (4) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」と関連をもち、系統化されているか。」についてですが、子供達にとって音読したときに日本語の持つリズムや音を体感しやすいものを扱っているという点で、光村図書と東京書籍がよいと判断しました。

また光村図書は、24節気など季節に合わせて学習できるという構成をとっているという点も母語にとっては特に大切にされている季節感というものを子供達が体感できる点がよいと判断しました。

3 (6) 「まとめや評価の観点、明確になるよう工夫されているか。」についてですが、各社とも「振り返り」やまとめを使って確認できるよう工夫されていると感じました。その中でも東京書籍と光村図書は、振り返りの観点から具体的かつ明確になっていると思います。

光村図書は、単元の最初に目標が子どもたちにわかるように書かれていて、最後に目標に呼応するように「たいせつ」という欄があり子供達が自己評価しやすい点も高く評価できると思います。

全体的に光村図書がよいと判断しましたが、教材の一つ一つが各学年の発達段階に適していること、子供達の生活に即しているという点、また、写真、挿絵、図などが、大きくはっきりして色も良い。という点から子供達の学習において理解や思考の深まりに大きく寄与するのではないかと考えます。

それでは続いて「書写」について報告いたします。継続で光村図書を推薦したいと考えております。「書写」については、大きく4点についてお話をさせていただきます。

光村図書、東京書籍、教育出版、学校図書、日本文教出版の5社で比較をしました。

1の調査表の観点でいいますと2 (2) 「児童の気づきを大切に、必要な技能を身につけられるよう配慮されているか。」においては、いずれの教科書も子供達の気づきを大切にするとよいと考えています。

特に東京書籍ではマンガ形式でポイントを示して子ども達の気持ちに沿って感覚的に分かるように工夫がされていると思います。

またその点において光村図書では、初めての字との出会いを大切にするような字の成り立ち、字形などについて詳しく説明されている点が良いと考えました。

方法は異なりますが、この2社が子供達の気づきを大切に、主体的に取り組めるようにしていると思います。

2 (3) 「生活経験に即し、文字に対する興味・関心を高める学習となるよう配慮されているか。」についてですが、学校図書、東京書籍が4年生において「手書きコンピューター」という項目が入り、今の子供達の生活に即していると考えます。また光村図書では、部首と部分の位置に気をつけてシールを貼れる活動ができるようになっています。

例えば門構えのところに、中に入る文字をシールによって変えていくことによって、部首と部分の位置を学習できる形になっています。

この3社がこの点において優れていると考えました。

また全体的な特色としては、見開きのページを扱っている会社が多いわけですがけれども、見開きのページは見やすいという良い点がある反面、全体的に長くなってしまいますので、特に書写においては、机の上に色々な道具が置かれることを考えると長くなってしまった教科書を扱うのは、子供達には難し

いのではないかという点で学校図書、教育図書、日本文教出版においては、その点においてはややマイナスと考えます。

光村図書において、何を学習するのかという考えを最初に示されている、終わりの振り返りのところで子供達がイラストをみながら評価できるという点が良かったと思いますし、また目次が大変見やすく、単元の流れが理解しやすい。

以上において光村図書が良いと判断いたしました。

<会長> ありがとうございます。それでは、ただいま報告いただきました「国語」「書写」につきまして、御協議をいただきたいと思えます。何か御意見、御質問はございますか。

<委員> 光村図書、東京書籍が2(2)と3(6)で◎と○で評価が分かれた点について教えてください。

<国語・書写 調査・研究委員長> 2(2)については、光村図書の方が、いろいろな分野を集めており、特に子どもの興味関心がひけるようなもの、昔の遊びを題材として扱っていたりする点があり、それがお正月の遊びにも繋がったり、そういった広がりがあるのかなと思えます。

3(6)については、単元の題材の最初のところに子どもに分かりやすい目標が書かれていますので子供達はそれを見ながらこういうことを勉強するんだなと分かる。大切という最後のまとめのところで子ども達自身が振り返りをすることができます。

<会長> 他にはございますか？ないようですので、選定に入ります。

「国語」「書写」について、「光村図書」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

全員挙手

<会長> それでは、賛成多数と認められますので、「国語」「書写」については、「光村図書」の教科書を選定することといたします。

それでは、「社会」「地図」について担当していただきました、調査研究委員長、自席で結構ですので調査研究結果の報告をお願いします。

<社会・地図 調査・研究委員長> 継続で東京書籍の教科書が適切ではないかと判断しました。

調査表1を御覧ください。4社の出版社を各観点別に比較して表を委員の先生につけていただきました。2の適当と認めた理由も観点別に記述をさせていただきました。

その中で学習指導要領の趣旨を良く理解し、児童の興味関心を高め、課題解決型の学習が成立するように配慮され、児童自ら学びを深めていくことが出来るような単元構成が東京書籍は出来ている。

社会科は資料がとても大切なのですが、グラフの読み取り方や資料を読み取るための補足説明があるかなど細かな配慮がなされているという点、写真や挿絵、資料なども児童の学習意欲がわくようなものとなっている点、比較的、長野県を扱っているため児童にとって身近に感じることが出来る教科書かなと。

社会の今日的課題についても記述が多く、その点でも十分な配慮がなされている点、以上により、継続で社会科の教科書は東京書籍が児童にとって最も適した教科用図書であると判断しました。

次に地図帳についてですが、2社（東京書籍、帝国書院）の比較でありました。

調査表1を御覧ください。委員の先生方に◎◎の比較を観点別につけていただきました。2の適当と認めた理由につきましても観点別に記述をさせていただきました。

地図帳についても継続で帝国書院を選んだ理由としましては、社会科（特に地理学習）を学ぶ上で必要不可欠な地図資料はもちろんのこと、関連するグラフや図表なども十分に備えられており、児童が主体的に学習を進めることができる。また色彩や資料の配列にも工夫がなされ、調べ学習もスムーズに進められるよう配慮されている。更に小学校で扱う日本の地図が、ていねいな作りがされていることはもちろんのこと、外国の地図も他教科との関連も考えられて作られている。東京書籍は大判なのですが、大判の良さも十分に見られるが、持ち運び等で教科書と同じサイズはメリットも大きいと考えられる。地図は3年から6年まで継続して使っておりますので、よっぽどな理由がない限りは切り替えは難しい。以上のことから、帝国書院の地図を推薦いたしました。

<会長> ありがとうございます。それでは、ただいま報告いただきました「社会」と「地図帳」につきまして、御協議をいただきたいと思えます。何か御意見、御質問はございますか。

<委員> 教科書が東京書籍で地図が帝国書院ということであるが、教科書を補完する地図が他社でも問題ないか？

<社会・地図 調査・研究委員長> 問題ありません。

<委員> 東京書籍が大判サイズで帝国書院が教科書と同じ大きさであるということだが、地図の大き
さで学習のしやすさには影響ないか？

<社会・地図 調査・研究委員長> ありません。

<委員> 東京書籍の教科書で6年生の他、その他の学年で、長野県を扱っている学年はありますか？

<社会・地図 調査・研究委員長> 具体的には言えませんが、調査委員の先生から長野県を扱ってい
る部分が多いという話を聞いています。

<会長> 「社会」「地図」について、「社会」は「東京書籍」、「地図」は「帝国書院」の教科書を選定
することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

全員挙手

<会長> それでは、賛成多数と認められますので、「社会」は「東京書籍」、「地図」は「帝国書院」を
選定することといたします。

<理科調査・研究委員長> 理科の教科書につきましては、信州教育出版の「楽しい理科」を推薦させ
ていただきます。理由として6点を挙げさせていただきました。

1 長野県の特徴ある自然や身近な事象を教材として数多く取り入れ、児童の実態に合った内容で、地
域の特性を考慮した単元配列である。特に生物分野においては、寒冷な気候と生物の成育状況（特に植
物）にあわせて学習ができるように配慮されている。

2 児童の思考過程を大切に学習展開がなされ、問題解決を図る学習過程も丁寧に示されており、
理科の苦手な教師でも指導できるように配慮されている。

3 観察実験の学習カードが充実しており、予想、計画、記録、結果、考察、まとめ等の記入の仕方が
具体的でわかりやすい。

4 さし絵、写真、図表等の内容が適正かつ正確であり、本文との関連が密接に図られている。信教の
教科書は、図表や写真が精選され、焦点化されており、その分シンプルでわかりやすい。資料を豊富に
揃えている教科書もあるが、情報が多すぎてかえってわかりにくくしているところもある。

5 観察実験の方法がわかりやすく、ポイントとなるところは写真や図で示されている。安全面の記述
が丁寧で、同じ単元の中でも繰り返し指導できるように配慮されている。

6 単元末の「まとめてみよう」が児童の言葉で端的にまとめられており、文章や図表を使ったまとめ
方の参考として有効である。

以上の6点から「信州教育出版社」の教科書を推薦させていただきました。

適当と認めた理由ですが、単元毎に子どもたちが自然から学んできた既習経験や既習事項が学習のス
タートとして取り上げられているところが、「信州教育出版」の非常に優れているところです。長野県
の寒冷な気候、地形などの特性を考慮した配列、ヘチマの観察、メダカの観察、モンシロチョウが孵る
様子など非常に的確に単元配列がされていると思います。子ども達の疑問を大切にして、見通しを持っ
て実験・観察ができる点。問題を自分たちで解決していくまでの見通しが持てる実験・観察が無理なく
配列されている点も優れています。

安全面への配慮ですが、5年の顕微鏡の持ち運び方、6年では安全メガネの着用といった安全面への配
慮が、ぱっと見て注意しなければいけないということが子ども達にわかりやすく説明されています。「信
州教育出版」は児童の思考に沿った問題解決学習を重視している点も優れています。

また、ヘチマや蝶といった生物教材、植物教材について「信州教育出版」が非常に優れていると思います。單元ごとにまとめがあって、児童の言葉を用いてのポイントを押さえたまとめになっています。実験をやりっぱなしで終わってしまう授業にならないように、また、若い先生方がどうやって子ども達にまとめさせようかと考えた時に、キーワードによるまとめがあり「まとめてみよう」のコーナーの中に子どもの言葉として子どもが書いた学習カードを示していますので、若い先生方にも理科の授業の終末の手助けになるのではないかとということで選択させていただきました。以上のことから「信州教育出版」は、長野県の自然や身近にある教材を数多く取り入れ、単元配列がスムーズであり、小学校「理科」は「信州教育出版社」の「楽しい理科」を推薦させていただきます。

<会長> ありがとうございます。それでは、ただいま報告いただきました「理科」につきまして、御協議をお願いします。御質問、御意見をお出しください。

<委員> 結論は結構ですが、現場の先生方から特に当初と比べて「信州教材出版」は「写真のレベルが今一つ…」というのが毎年上がってくるのですが、評価を見ると確かにそういう評価になっていますが、写真の鮮明さや構図など、写真の扱いについてはどのようにお考えですか。

<理科調査・研究委員長> 鮮明さという点では子ども達の興味を引くような鮮やかな写真を出している出版社が多いですが、実際の具体物を用意したり教材研究をしたりする中で各専科、教科担任の方で、補助教材などを使っていけば補えるのではないかと、それ以外の長野県に即した単元配列などが勝っているという点で「信州教育出版」が良いのではないかと、という結論に達しております。

<委員> 先生方が作り上げてきた長い歴史の中での教科書だと思うので、土着性というか、そういう魅力を持った教科書は他にないかと思って見ていますが、もう一つは、子ども達を中心になるんですが、どうしても理科は教材を準備したり、採る植物単元は早めにやっていかないと季節や時期の関係するものだから、そういう流れがしっかりと見えると先生方にとっても教科書を中心とした授業展開が準備も含めてやりやすいのではないかと感じます。

そういったことから、私は教科書であっても土着性の強さ、そういったものをむしろ前面に出しているのはいいことだと思っています。

<会長> ほかに特にないようですので、選定に入ります。「理科」について、「信州教育出版」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

全員挙手

<会長> それでは、賛成多数と認められますので、「理科」については、「信州教育出版」の教科書を選定することといたします。

<生活科調査・研究委員長> 生活科というのは、名前の通りまさに生活そのもので、子ども達の目の前にあるその生活とつながっていて、それを学びに生かしていくことが大切です。そして生きる力を培っていく教科であるという視点から考えていきました。長野県の風土や環境に合わせた自然や生活を単元に取り入れてある。そして自分を取り巻く人々との体験や「ひと・もの・こと」とのかかわりを深められるように教師自身の工夫や、授業する人の工夫が表されている。また地域の特性が織り込まれて児童にとっては身近なもので興味がひける。そのため上小地区の子ども達が生活を見つめ生活を豊かにする教科書としては、「信州教育出版」の「生活科」の教科書が最適であると考えました。

イラストや写真は多用されているばかりでなく、効果的に配置されています。また、文章の量は、子どもが読む力をつけるために、低学年の発達段階に配慮されています。そして、こういうことがやりたいなという体験を想起させやすい日常的な地域の様子を豊富に取り込んだ教科書であると思いました。

この教科書はそれは信州らしさが表現されており、委員会として子ども達の意欲を高めるには、大変

有効であると考えています。

加えて、長野県の風土に合った季節の移り変わりや風景の違いも効果的に配置されています。「いいところだね」という単元のところでは、春・夏・秋・冬と見開きのページを紹介しており、先ほども言いましたが、具体的な事実をリアルに紙面に表し、気づきの質、知的な面を高めるという点でも有効な教科書であると考えました。教科書で伝えたい活動内容や目当てなどの意図が児童に明確に伝えやすい工夫も全体的に施されています。以上のことから「信州教育出版」の「生活科」の教科書が上小地区の子ども達にとって最適だと考え、挙げさせていただきました。

<会長> ありがとうございます。それでは、ただいま報告いただきました「生活科」につきまして、御協議をお願いいたします。何か御質問、御意見をお出してください。

<委員> これは全県からのアンケートで、選定した理由が何十項目と、こういう理由で教科書の評価としては挙がってきています。今もご説明いただいた長野県の季節や地形、風土などをあわせて、理科や社会、または総合的な学習の観点から、こういう理由で評価はされている、肯定的な意見が多いという意味でいいかなと思います。

<会長> ほかに特にないようですので、選定に入ります。「生活科」について、「信州教育出版」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

全員挙手

<会長> それでは、賛成多数と認められますので、「生活科」については、「信州教育出版」の教科書を選定することといたします。

<音楽調査・研究委員長> 「音楽」では、私のほか2名の先生と選定させていただきました。「教育芸術社」と「教育出版社」の2社で検討しました。「教育芸術社」は評価項目13項目のうち10項目で高い評価となりましたので、「教育芸術社」のものを選定したいと思います。

主題による題材構成がしっかりされ、共通教材の扱い方や写真の見やすさなどは、児童が興味関心を持ってページをめくることができる教科書であると思います。児童の感性、表現力が豊かに伸ばせる教科書だと思っています。また、発達段階に配慮がなされた難易度で構成されており、楽曲等の選択や、学習形態が学年に応じて発展的に学べるように工夫がなされています。

選定理由の③番ですが、主体的、創造的に楽曲に関われるよう、児童が自ら書き込んでいけるようなスペースも採用されており、楽譜の背景色などにも工夫がなされています。また、追及の手順を具体的に示したり、絵や写真等を使って主体的な取り組みを促したりしています。

選定理由の④番ですが、主題による題材構成がなされており、基礎的、基本的な内容を児童の実態やねらいに即して指導できるように工夫されています。楽曲の中に基礎的、基本的な項目がきちんと盛り込まれ、ページを開くとそれらが見られるようになっています。

また、音符や楽譜の決まりなどが各学年毎、巻末の同じ位置に示されています。それにより、どの学年であってもそのページにアクセスすることで、過去に学んだことを繰り返し確認できたり、新出の楽理などを調べたりすることができたりして、知識を確かめることができるようになっています。

選定理由の⑤番ですが、1つの楽曲で斉唱、合唱、アンサンブル、歌唱と器楽、身体表現など、活動が多岐にわたるよう配慮されていたり、リズム打ち、リズム遊び、歌遊びなど、多様な音楽活動を取り入れて音楽への興味関心が深まるように工夫されていたりします。1つの楽曲について「歌おう」とか、「器楽演奏しよう」というように活動を限るとことなく、1つの楽曲の中で様々な表現活動を盛り込めるように工夫されているところが大変優れております。

それから基礎的な学習をもとに発展的な追及ができるように、身近な音楽、子ども達が慣れ親しんでいるような、普段耳にしているような音楽、あるいは日本国内の音楽が多様に紹介されています。この点は非常に大きな特徴であるというふうに感じました。「教育芸術社」のものは、日本の音楽を非常に大事に捉えていると思いました。

学習内容における各学年の関連も図られ、教科書を使っていくにしたがって発展的なものが系統的に示されて学習を積み重ねていかれると思いましたので、「教育芸術社」の「音楽」をおすすめしたいと思っています。

<会長> ありがとうございます。それでは、ただいま報告いただきました「音楽」につきまして、御協議をお願いいたします。御質問、御意見をお出してください。

<委員> 確認ですが継続、今も「教育芸術社」の教科書を使っているということでもいいですか。

<音楽調査・研究委員長> はい。現在も使用しています。

<委員> 先ほどお話しいただいた多様な音楽活動を入れて、興味関心が深まるというようなことを⑤で選定の理由を言っていたのですが、◎◎を付けていただいた次のページを見ると「教育芸術社」の2(2)興味関心をいうところが○、3(4)の多様な音楽活動を通して音楽への興味関心が深まるような配慮が○ということになっていますが、こちらの選定した理由の言葉書きと調査票で出てくる◎◎の部分のずれは特にはないですか。

<音楽調査・研究委員長> ありがとうございます。⑤番のところは1つの楽曲の中で、1つの題材の中で、こういうことが盛り込まれているという意味で、教科書全体を通してみると、こういう評価になるということです。特徴として、1つの楽曲の中に様々な活動が盛り込まれている題材があるということです。

<委員> 説明を求められたときに、言葉だけを見てしまうと◎◎の部分と選定理由の言葉の部分が異なるように見えると感じたので、説明ができるようになっていればよいのかなと思って聞いてみました。

<音楽調査・研究委員長> どちらの教科書も興味関心を高めるという点では遜色はないと思います。ただ、「教育芸術社」のものは、1つの楽曲の中に様々な活動が盛り込まれている題材があるということが大きな特徴だと感じました。

<委員> 分かりました。結構でございます。

<委員> 6番に、身近な音楽や日本国内の音楽が多様に紹介されているとあります。今年、童謡唱歌「赤い鳥」が発刊されてから100年だそうです。私は「ふるさと」に代表されるような日本の音楽というようなものも多様にちりばめられてあるといいなと思っていますが、「教育芸術社」の教科書はどうですか。

<音楽調査・研究委員長> まったくご指摘の通りでして、巻末近くに「日本の歌」というようにまとめて掲載してありまして、どの学年にも「日本の歌」が採り上げられています。鑑賞においても和楽などが比較的多く採り入れられておりまして、そこが「教育出版社」と大きく違うところであると思います。「教育出版社」の方は日本的なものがあまり取り上げられていませんが、むしろどちらかというところの音楽、世界的なものは「教育出版社」の方が多く採り上げられているという特徴があると思います。

<会長> ありがとうございます。他にないようなので、それでは、選定に入ります。

「音楽」について、「教育芸術社」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

全員挙手

<会長> それでは、賛成多数と認められますので、「音楽」については、「教育芸術社」の教科書を選定することといたします。ありがとうございました。

<家庭科調査・研究委員長> 「家庭科」につきましては、「東京書籍」と「開隆堂」の2社を比較検討させていただきました。私を含めて3名がそれぞれの単元で比較をして見比べ、評価をいたしました。相違点のところを説明させていただきます。

適当と認めた理由のところの資料をご覧ください。

まず2番の児童の学習過程への配慮(4)「開隆堂」についてですが、ガスの使用の仕方、調理活動の後片付けの仕方、安全面、衛生面などについて、写真やイラストを用いて工夫して分かりやすいものになっております。

(5)ですが、製作や調理などの基礎的、基本的な知識や技能について順を追って写真や説明が明確に示されており、見ることで実践できるよう工夫されている。

「東京書籍」については、左利きの児童についても配慮して左利きの場合はこちらという写真も提示してあります。

3番の学習指導への配慮ですが、(2)児童の家庭生活、地域の行事等と関連づけられるように配慮されています。各社とも関連付けられるようにはなっておりますが、「東京書籍」の方がより関連付けられる内容となっております。

(5)は各社とも写真、挿絵や図表など適切に示されておりますが、「開隆堂」は写真を適切に用い、生活経験の少なくなっている現代の児童にも調理や製作の手順がわかりやすく示されている。

(6) ですが、「開隆堂」の方が巻頭に、「東京書籍」は単元ごとに自己評価の観点があり、達成できたかどうか振り返りができるように工夫されている。

全体的な特色ですが、各社とも自分の身近な家庭生活を見つめ直して課題を持って追及されるように設定され、児童の興味関心を高めながら日常の生活に必要な、基礎的、基本的な知識や技能を身に付け生活を工夫しより良くしていくような構成になっております。

「家庭科」委員会としましては、「開隆堂」を選定させていただきました。選定した理由ですが、教科の目標を達成するために目標や内容を的確にとらえ衣食住に関する日常的な必要な、基礎的、基本的な知識や技能を身につくような単元が設定されております。また、易しいものから難しいものへと題材も工夫されていて、季節をも配慮した配列になっております。家族の一員として生活をより良くする実践に結び付くような配慮がなされております。特に学習の「目当て」「導入」「展開」「まとめ」の学習のプロセスが分かるように紙面構成がなされていて、見通しを持って学習できるように題材の設定や学習展開が表示されております。各題材とも「学習の目当て」で始まり、問題解決型の学習を通して最後に「振り返ろう」「生かそう」のコーナーで家庭実践につながるような工夫がされております。

各学期末ごとに「チャレンジコーナー」というのが設けられていて、長期休みを利用した家庭実践の取組に適しております。

製作や調理などの基礎的、基本的な知識や技能について順を追って写真や説明が明確にされていますので、見ることで実践できるように工夫されております。特に調理の手順がすべて、児童の側から見た写真が示されており、経験の少ない児童にも分かり易くなっています。作品例も豊富で参考になります。

ガスの使用の仕方、調理、作業の後片付けの仕方や安全面、衛生面など写真やイラストを用いて工夫して提示をしてあります。

具体的に言うと、両者の大きな違いは紙面構成です。「東京書籍」は「いつも確かめよう」というコーナーが単元の最後のページ、また教科書の巻末に全部まとめてありますが、「開隆堂」は、それぞれの単元のページの中に必要なものは書いています。「包丁の扱い方」「まな板の扱い方」「後片付けの仕方」「はさみの渡し方」から「待ち針の止め方」まで、単元のページの中に入っています。大きな写真やイラストで分かりやすく提示されております。「家庭科」を教えるときの特徴として、多くの学校では音楽の先生が「家庭科」を教えていらっしゃると思います。また、5、6年は男性の担任が多く、男の先生も「家庭科」を教えることがあるということ考えた時に「開隆堂」の見開き2ページの中に手順や安全面、やり方が収められた紙面は使いやすいくと考えます。また、児童の側から考えますと、今の児童は家庭での生活経験が少なく、高学年になっても皮むきをしたことがない、針を持ったことがないという児童もいます。ミシンがないという家庭もあります。そういう子ども達にはまず基礎基本が大切になります。そういう点から言っても「開隆堂」の分かり易く手順が示され、写真が多く使われた教科書は適当であると思います。

もう一つ「家庭科」のねらいは、学校で学んだことを家庭生活に生かすということがあります。参考例が多く、「チャレンジコーナー」が充実していて、自分の力に合わせて選んで作ることができたり、難易度を変えて難しいことにもチャレンジできたり、児童の願いに合わせて選択をすることもよいということがあります。以上の点から「開隆堂」を選定しました。

<会長> ありがとうございました。それでは、ただいま報告いただきました「家庭科」につきまして、御協議をお願いいたします。御質問、御意見をお願いします。

<委員> 先ほど、先生方への配慮、子ども達への配慮ということで、教科書として適切であるというお話でしたが、調査票の3(2)で、児童の家庭生活につなげたいという話があったが、選んでいただいた「開隆堂」の方は○で、「東京書籍」は◎になっていますが、その違いは何かありますか。

<家庭科調査・研究委員長> 単元展開の中で、子どもの家庭生活の実態とか興味関心から授業が進められるような単元を進めていくときの構成が「開隆堂」と「東京書籍」で違っているということです。「東京書籍」の方が問題解決学習型になっているという差です。

<委員> やっぱり「家庭科」は家でやらなければ勉強したことにならないと思いますが、「開隆堂」の「これ家でやったよ」といったときに親の感想が入るとかシールが貼れるとか、子どもがチャレンジしやすいような工夫はありますか。

<家庭科調査・研究委員長> あります。6年生の学習では、見開きの2ページで子ども達が感想を書いたりすることができます。

<委員> 5、6年になると、親が忙しくて自分で朝ごはんの準備をしたりすることもできるようになる、なってもらいたいと思いますが、子ども食堂に頼る現実があります。「家庭科」は男の子でも女の子でも1番大事。算数、国語よりも生きていくうえで大事だと思っているという点で、「開隆堂」はいいですか。

<家庭科調査・研究委員長> 教科書はどれもそうですけど、基礎、基本をととても大事にしている、学

校で「家庭科」をやりますが、学校で習ったその基礎、基本を家庭の生活に生かせるように、そういう考えです。

<委員> 確認ですけれども、この教科書は継続でいいですか。

<家庭科調査・研究委員長> はい。継続です。

<会長> 他にはありますか。それでは、選定に入ります。

「家庭科」について、「開隆堂出版」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

全員挙手

<会長> それでは、賛成多数と認められますので、「家庭科」については、「開隆堂出版」の教科書を選定することといたします。ありがとうございました。

<保健調査・研究委員長> 「保健」について、私を含めた3名で選定させていただきました。ご報告させていただきます。

結論から申し上げますと、私たちが選定させていただいたのは「学研教育みらい」の「みんなのほけん3・4年」と「みんなの保健5・6年」で、つまり継続となります。新学習指導要領の完全実施に向けて今後、指導内容の再構成が考えられること、現行の指導内容が3・4年生、5・6年生の連学年構成になっていること等、先を見据えたところも考慮しています。

では、「学研教育みらい」を選定した理由について申し上げます。資料をご覧ください。

出版社が5社ありましたが、調査票を見ていただくと「学研教育みらい」と「東京書籍」については私たちが非常に悩むところがありました。各社、それぞれによさを感じましたが、客観的に◎と○の数を見ていただくと「学研教育みらい」と「東京書籍」が他社を少し上回っています。その詳細について、説明させていただきます。

「学研教育みらい」を選定させていただいた理由の1つ目として、文章量・内容が児童の心身の発達、段階に応じた配慮がされていることです。特に文章量については、説明文の量や資料に関する説明の仕方「学研教育みらい」は、とても丁寧であるという印象を持ちました。内容についても、充実している感があります。その要因について考えたところ、この教科書の作成に携わった先生方が多様な専門分野でご活躍されており、それぞれの特徴を生かされた資料が盛り込まれていることも一因ではないかと思えます。子ども達にとっても、これから先の自分たちの生活を考えて学んだことを実生活に生かしていくことができる、そのような配慮がなされていると感じました。

2つ目ですが、挿絵、写真、図表、配色などが鮮明で学習意欲を喚起するように配慮されておりました。どの会社についても、資料については非常に大事にされていて、力を入れてくださっていると感じました。ただ構成上、挿絵や説明文が入ってくる段階で、子どもが学習活動に見通しを持つことができるかという点は、大切にしたいところでした。私たちが1時間の授業をつくる時「ねらい」を明確にし、子どもたちが主体的に活動を行い、学習の振り返りをするという流れを大事にします。それが、この教科書を読むとよくわかります。今一つと感じた会社については、この点について視覚的なとらえにくさを感じたからです。単元によっては、その順序が逆転していたりとする教科書もありました。そうすると子ども達自身の力で学習を進めていくとき、困難が生じます。整理されている方がよいと感じました。

3つ目です。まとめや評価の観点、1時間の流れが明確になるよう工夫されていると感じました。1時間の学習内容が限られたページで構成されている、その後の学習活動にもつながるようなページが挿入されているのが「学研教育みらい」でした。「もっと知りたい、調べたい」というような習得したものを活用していく、更に子ども達の知的好奇心をくすぐるようなページを、このようにまとめて入れているのは、「学研教育みらい」のみでした。このようなページがこれからの学習指導要領における指導内容の習得を目指したとき、大切になると考えます。移行期間ではありますが、新学習指導要領の完全

実施につながりを考えると優れていると思います。実際、現在も使っている教科書ですが、他の先生方からも発展的な学習につなげやすいとの声をいただいております。このような声も大事にしたいと考えました。

総合的に見て、私たち、委員会としては「学研教育みらい」の教科書を選定することにしました。

<会長> ありがとうございました。それでは、ただいま報告いただきました「保健」につきまして、御協議をお願いいたします。御質問、御意見をお出してください。

<委員> 現場にしながら「保健」の教科書について詳しくわかっていなくて申し訳ないのですが、心の健康や健康的な生活習慣について、いわゆるパソコンやスマートフォン、SNSというようなものについて自律的にそういうものを活用して付き合っていくということについては現代的な課題だと思いますが、「保健」の教科書の中でどの程度扱われていて、特に特徴的にこの教科書にはこういう特徴があったなどがあれば、教えていただきたい。

<保健調査・研究委員長> 小学校の「保健」と中学校の「保健体育」の教科書を通して見ますと、だいぶ重複している指導内容があると感じています。なので、小学校段階における大切なものがどの程度あって、どのような言葉、どのような資料で伝えてあるかが重要になってくると思います。今、ご指摘のありました現代の課題であるパソコンやメディア機器の使用について、どの程度触れているのか。「学研教育みらい」の教科書については、先ほど述べたとおり「パソコンを使うときには」というページがあり、メディアの使用について触れています。これについて、触れていないところもあります。それを考えますと、1歩先を行っているかなと感じます。先ほど申し上げました、教科書の作成に携わった先生方の人数が選定理由ではありませんが、やはり専門性の高い先生方によって作成されているというのも大切であると思います。多くの方々から資料を集めているという部分について、優れていると思います。

<委員> 先ほど3(6)や評価の観点などご説明いただいて、2(4)で文教社だけが◎がついています。(4)は用語の解説や記号、計量単位などが適切で、見出しや文章表現が分かり易く工夫されているか、という点について、「学研教育みらい」と「文教社」の違いとして捉えているものはありますか。

<保健調査・研究委員長> 正直、この◎と○の差というのが大きくあるわけではありません。印象的な見解になってしましますが、構成の見やすさ(わかりやすさ)、大切な用語等について、抽象的な言い方で申し訳ありませんが、「文教社」の場合、一つ一つが目につきやすい形でテーマ(用語)が表記されていて見やすいと思います。更に、私たちは選定していく中で、この点の見やすさと記号化という部分だけでなく、中身も見ていくとどこも似たような様子であったかと思います。見出し等が強調されていたという点で、高く評価しています。

<委員> では、それが「学研教育みらい」を選んでも大きな問題にはならないというふうにとらえたということですね。

<保健調査・研究委員長> そうです。

<会長> ありがとうございました。他にないようなので、それでは、選定に入ります。「保健」について、「学研教育みらい」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

全員挙手

<会長> それでは、賛成多数と認められますので、「保健」については、「学研教育みらい」の教科書を選定することといたします。ありがとうございました。

<算数調査・研究委員長> 「算数」について、お願いいたします。私たちが選定した教科書についてですが「啓林館」の「わくわく算数」です。調査表の方をご覧ください。5社の教科書の中から選定い

たしました。採択基準と観点を照らしあわせて1社ずつ検討いたしましたところ、結果として「啓林館」がすべて◎となりました。その根拠といたしまして、適当と認めた理由のところで、各社とも共通している内容には1番上に○を付けて示してあります。それ以上に良かったと思われる教科書につきましては、その理由を教科書名と併せて書いてあります。その結果に基づいて、観点について◎○が付けてあります。

選定した理由ですが、子どもが自ら考え学ぶ力を育成するという意図が明確に打ち出されており、数学的な見方や考え方が記述表現においても系統性を持って一貫しているということが大きな理由であります。数学的な見方、考え方はやはり算数にとって非常に重要であると考えます。その観点から検討してまいりました。

(1)といたしまして、概念形成にこだわり、算数から数学へと系統性を重視した学習内容や単元構成がなされているのが分かります。

観点の方を見ますと、適当と認めた理由の2(1)【啓林館】をご覧ください。既習事項と関係付けながら、個に応じた多様な考え方を示し、比較検討を通して理解を深めていけるように配慮されていると感じました。算数においては、中学の数学でも同様でございますが、既習事項の関連性や多様な考えというのが数学的な深い考えにつながりますので、とても大切にしたい点です。その点について啓林館ではどの単元でも意識して作られていると感じました。

(2)としまして、思考力・表現力・判断力が育まれる工夫であります。理由2(2)【啓林館】を見てください。作業的・体験的活動など数学的活動を積極的に取り入れ、児童自らが見通しを持って課題設定ができるように配慮されています。更に、ヒントとなる吹き出し等が示されており。個に応じて書き込みができるように工夫されています。小学校も以前は算数的活動という言葉が使われていたのですが、それが全て数学的活動という言葉になりました。より数学的な筋道を立てて論理的思考を養うという理由から、数学的活動ということになっていくわけですが、そのためにはより良い活動を伴うということで、教科書の中でも作業的、体験的な活動ということを示してあるということで、授業の充実を図っていいのではないかと考えました。

(3)ですが、算数への興味・関心を高め、自ら学ぶ力を育む工夫ということで、やはり興味・関心ということが、学習で言えば重要であると考えます。

2(3)【啓林館】のところで、円の面積を求める際など、方眼を数えたり、見開きで2つの事例を検討したり、子ども達の具体的な活動を通して気づきや考えが広がるように展開が進められるということがあります。算数の指導で、教科書を使わないで学習プリントなどを示す場合もあるわけですが、【啓林館】の場合には、こういうところもまさに学習プリントのように教科書を使えるように工夫されている箇所が多く見られます。円の面積では方眼を数えたりするのはこの教科書でも示していますが、それを計算で求めたり、もしくは三角形を置き換えてみたり、事例を挙げていることは大事なので、子ども達がより深い思考を得られるということで、興味・関心を高められると思いました。同じく(3)のところで3(5)をご覧ください。【啓林館】は日常生活と算数学習との関連性が大事にしていると思えました。児童の身近な事象を示して「学びを生かそう」という特設のページを設けて算数への関心・意欲を高める工夫がされています。

続けて、最初に戻りますが、(4)学び易さへの配慮ということで、どの教科書でもいろんなカラーを使ったりとか写真を使ったりしてありますが、その中でも理由の2(4)【啓林館】では、既習事項の確認を図るために、比較的簡単な問題から取り組みをスタートさせ、段階を追ってステップアップが図れる学習展開が考えられています。巻末には、単元ごとに「もっと練習」や「学年のまとめ」というものが設けられているのも工夫ということで、算数はどうしても差がつきやすい教科ということが言われていますが、その子に応じてもっと

練習したいという子にとっては、そのページで学習ができるというふうになっておりました。3(2)「復習→準備→新単元」という流れで必要に応じて既習事項を確認し、繰り返し基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れるように配慮されておりました。また3(4)ですが、様々な学習形態に対応できるよ

う、発展的な問題と補充的な問題が「発見!算数島」という名前で位置づけられており、個に応じた指導の充実が図れるよう工夫されていると思いました。

以上であります、よろしくお願いいたします。

<会長> ありがとうございました。ただいま報告いただきました「算数」につきまして、御協議をお願いいたします。御質問、御意見をお出してください。

説明がとてもよかったため、御質問、御意見がございませんので、よろしいでしょうか。それでは、選定に入ります。「算数」について、「啓林館」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

全員挙手

<会長> それでは、賛成多数と認められますので、「算数」については、「啓林館」の教科書を選定することといたします。ありがとうございました。

<中学校 道徳調査・研究委員長> まずはじめに、来年度の教科化に向け、今回「生徒と共に創る道徳の授業」について委員同士で意見を交わし合い、考え合う貴重な機会をいただきましたことに、調査委員のメンバーを代表して心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

正直、第一回目の委員会の時には「貴重な機会をいただいた」「よい機会なので勉強したい」という声もあれば、「中体連の時期で苦しい」「どうして自分が選ばれたのか」などという声もあり、選ばれた委員の中にも温度差がありました。しかし、一人一人が分担された教材について、各社の教科書を手比較しながら分析し、よさや課題について検討を重ねるうちに、委員会の雰囲気は変わっていききました。

それは、「すべては子どもたちのために」各社が実際の生徒を思い描き、情熱を傾けながら工夫をしてくださっていることが伝わってきたこと。そして、何よりも委員自身が自らのクラスの生徒たちをイメージしながら、「自分のクラスならこのように発言する子がいる」「この導入だと子どもたちはとても考えやすい」など、教科書をもとに具体的な授業をイメージしながら考え始めたからだと思います。それだけ、どの教科書にもよさや工夫が見られ、それぞれの持ち味が生かされた完成度の高いものばかりでした。

しかしながら、私たちには採択する教科書を選定するという重大な任務がありましたので、県からご指示のあった観点別に評価しつつも、委員として以下の5つの視点を大切にして、半数に絞ろうと考えました。

- 1, 中学生という発達段階や生徒たちの実態を考慮しながら、私たち教師が主体的に授業づくりができるもの
- 2, 道徳科の目標を実現するために工夫されているもの

道徳科の目標である、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、

- ① 自己を見つめ、
- ② 物事を広い視野から多面的・多角的に考え、
- ③ 人間としての生き方について考えを深める

学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」ものになるかです。つまり、生

徒が自ら「考えをもつ」ことへの配慮や工夫、それをもとに「友と意見を交流する」ことを学習の中心に据え、教材の読み取りのみに偏ることなく、発達段階に合わせた道徳的諸価値の自覚を深められる多様な教材で構成されているかどうかに着目しました。

さらに、小学校段階でも大切にされている

3, 新たな教育課題「いじめ」や「生命尊重」等について意識され、工夫されているか。

4, “主体的・対話的で深い学び”をいかに実現しようとしているか。

5, どの生徒にも内容が理解しやすいような合理的な配慮がなされているか。(UD化)

という視点についても、各社の教科書を比較し、検討いたしました。

選定教科書が8社もあったことや、加えて教科化となる道徳の教科書を選定するという重責を感じながらも、委員はやりがいを感じ、前向きに取り組むことができました。しかしながら、どの教科書にもよさや課題があり、また委員によっても受け止め方が異なるので、改めて選定をすることの難しさを感じました。

はじめに、8社全体にかかわる部分についてお話しします。

今回の選定の一番の拠り所としたことは、まず「教師が生徒と共に、主体的に授業づくりができるもの」という点を重要視しました。小中連携、発達段階にかかわってお話をします。小学校段階であれば発達段階を考慮したり、道徳の時間の学び方を学んだりすることができる工夫が必要かと思えます。

しかし、6年間道徳を学んできた中学校段階では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、「自分とのかかわりで考える」「多面的・多角的に考える」学習を通して、自分と向き合う、生き方について改めて考えることができる授業が求められるため、示されている発問の数や質にこだわりました。つまり、中心的な発問とは、その時向き合っている目の前の生徒たちが、どのような状態にあり、その生徒たちにどのようなことを考えさせたいのか、中学校では教師自身が生徒の実態をもとに考え、授業プランを選択し、アレンジできる柔軟性が必要ではないかと考えました。

関連して、道徳の教科書とノートに分けた会社が数社あり、「このような教科書の方が若い先生方や担任経験の少ない先生方には適しているのかもしれない」と考えたり、検討したりもしました。しかし、上記の理由でどうしても道徳ノートに沿ったパターン化された授業展開になってしまい、中学生の生徒たちが「どうせ、〇〇って書けばいいんでしょ」と、「答えは一つではない」という道徳の授業の魅力が失われてしまうことも懸念いたしました。よって、今回道徳ノートの使用は、選考上重要視しておりません。

数回の検討を重ね、評価表のように8社から4社（東京書籍、学校図書、光村図書、日本文教出版）に絞りました。日本文教出版は先程の教科書とノートに分けた形態をとっておりますが、自己評価欄の工夫（評価の視点）などを考慮して、最終選考にまで残りました。以上4社に絞り込んだところまでの説明であります。

【4社についてのコメント】

日本教科書

- ・正義、寛容、人権、人間愛など扱う様々な教材で、生命を尊ぶ態度の育成が目指され、友情・信頼や生命尊重に関わる教材を多く載せて、思いやる心を育むように工夫されている。
- ・道徳教育の系統性と体系化を考慮し、各校の実状に応じて年間指導計画が立てられるように学習指導要領の内容項目順に教材が配列され、学年間と他教科・領域との繋がりが配慮されている。

廣済堂あかつき

- ・「考える・話し合う」には本時のめあてとともに、登場人物を通して道徳的諸価値について自身と関

わって捉えられるような発問も示され、主体的に考えられるように工夫されている。

- ・ 道徳ノートには、発達段階に応じて道徳的諸価値の理解が深まるように解説文が掲載されており、記述欄に生徒自身の考えを書くことで、生徒も教師も成長の過程を捉えられるように工夫されている。

教育出版

・ 内容項目ごとに導入文や複数の発問が設けられ、ねらいを明確にして様々な学習展開を用意することで、考え、議論する道徳が実現できるように配慮されている。

・ 様々な内容を扱った教材や多様な形態をした教材を基に、生徒が自分自身と向き合い、友達と意見を交流し深めていくように工夫されている。

学研教育みらい

・ 教材中に主題名を明示しなかったり、発問を精選したりするなど、学級の実態に応じて工夫することができるように配慮されている。

・ 生命尊重を重点テーマとし、様々な内容項目の教材を用いて複数の観点から命の大切さを考えることができるように工夫されている。

4社に絞り込んでからは、評価表の項目一つ一つについて再評価したり、先ほどの5つの視点からさらに各会社の教科書を丁寧に分析したりして、委員会としての結論を導き出しました。

結論は以下の通りです。

4社の中から光村図書出版の教科書が、他社7社と比較して、以下の点において工夫されているため、選定しました。

(1) 生徒や学級の実態を大切にしながら、ねらいとする道徳的価値にかかわり、本時考えさせたいことは何か、どのような指導方法、アプローチが効果的か、道徳科の目標を実現するため、教科書をもとに”教師が生徒と共に主体的に授業づくりができるか”という視点を最も重要視した。その点において、自分とのかかわりで考えを深め、広げていく観点としての「つなげよう」、多面的・多角的に考える観点としての「見方を変えて」を活用しながら授業づくりができる、上記発行者の教科書を選定した。

(2) 「私の気づき」などの生徒が自ら「考えをもつ」ことへの配慮や工夫、それをもとに「友と意見を交流する」ことを学習の中心に据え、教材の読み取りのみに偏ることなく、発達段階に合わせて道徳的諸価値の自覚を深められる多様な教材（言語活動を重視した教材や漫画で見せる教材など）で構成されている。

(3) 小中の連携の視点において、補助教材として小学校の定番教材を掲載している。中学生へと成長した今の自分の考えを改めて語り合うことで、生徒たちは再び考え直し、深い学びへとつなげていくことができる。

(4) 各巻最終ページには内容項目、現代的な課題等とのかかわり、他教科・領域とのかかわりが一覧となっているため、教材配列を変更したり、差し替えを行ったりすることができるように配慮されている。

(5) 見やすいさし絵や写真、目にやさしい色づかいの用紙が使われ、生徒が集中して道徳の学習に取り組めるように配慮されている。

【3社に対するコメント】

東京書籍

・ 巻末の心情円は、自分の気持ちを割合で表せ、ホワイトボードは、自分や友達が見聞を書くことにより、様々な人と交流し、自分の考えを深められるように工夫されている。

・ 各教材の冒頭に、問題の提起から導入できるように配慮されており、生徒が問題を見つけたり、把握

できたりするように工夫されている。

日本文教出版

- ・教材の見出しに主題名を明示することで、生徒が見通しをもって学習し、図や写真を活用して自分から学習を深められるよう、教材や学習の進め方などに配慮されている。
- ・道徳ノート(別冊)には、自分の考えや友達の発言を記入するほか、「前向きに自分にいかす」記入欄を設けたり、家庭との連携も図れたりするような工夫がされている。

学校図書

- ・全ての教材に「意見交換」を促す発問を置き、多面的・多角的な思考・判断・表現の場を設け、主体的な学びを通して、道徳的諸価値に迫る深い理解ができるように配慮されている。
- ・学年内においては、1年間を夏休みと冬休みで区切る3つの期間に分け、それぞれの期間で四つの視点をバランスよく学べるように配慮されている。

最後に委員会として検討する中で、来年の道徳の授業について話題になったこととお話しさせていただきます。

とにかく、中学校は道徳の時間を35時間確保することが最も重要なことであり、最大の課題でもあります。教科書が決定することで、授業時間が確実に確保され、これまで中学校現場で行事などの準備や生徒指導として使われていた道徳の時間は激減すると思います。

しかし、前日や直前になって指導書を開き、「明日はこの発問でいいや」となってしまう道徳の授業も決して少なくないと思います。教科化の前年度の今だからこそ、道徳の授業づくりについて、発問の吟味、教材の分析などについて、学年会等の時間を工夫していただきながら、複数の先生方で考え、議論する場を大切にしていきたいと思います。若い先生方にも、積極的にその議論に参加していただき、ベテランの先生方から道徳の授業について学び、研鑽を積んでいただきたいです。教師の力量、その教師の生き方が現れるのも道徳の授業だからです。

では、どのように先生方の考え、議論する時間を生み出していけばよいのでしょうか。

少しだけ、本校の取組を紹介します。本校の道徳教育は、学年研究を中心に進めていきたいと考えています。学年の道徳係が主になって、月ごとの道徳、学期ごとの道徳の授業づくりを提案していきます。放課後の部活指導等でなかなか係会の時間をとることができないため、道徳係会はスライドの中に位置付けました。そこで、各学年の推進状況を確認したり、学校全体の方向性や進め方について検討したりしています。来年の教科化に向けて、学年内でのローテーション授業なども試行し始めたところです。

上小教育会には道徳指導委員会や道徳の同好会等もごぞいます。道徳の授業づくりや指導方法について積極的に発信していただいたり、指導についての勉強会などを企画してもらったりすることも必要です。評価、実践事例については、校内のみならず、上小地区全体で検討し、議論していくことが大切なことだと思います。

上田市教育委員会ははじめ、本日お集まりの皆様方にもお力添えをいただき、上小地区全体で道徳教育に関して大きな流れをつくっていただきたいと願っております。

今秋は上田地区の各校で、幸いにも文部科学省指定校研究発表、長野県道徳教育学会研究発表、信濃教育会道徳研究発表などが開催されます。道徳教育に関する我々の意識を高め、発表会等に積極的に参加し、各校の道徳教育推進にお役立ていただければ幸いです。私たち委員も微力ながら協力させていただきます。何卒よろしくお願いたします。委員会からの報告は以上です。ご検討をよろしくお願いたします。

<会長> ありがとうございます。ただいま報告いただきました「中学の道徳」につきまして、御協議をお願いいたします。御質問、御意見がありましたらお出してください。

<委員> 2つありますが、まずはじめに12-2と12-3のページですが、上から(1)～(6)、(1)～(5)は12-2で示されている観点とは違うという理解でよろしいですか。

2点目ですが、今の委員会で選定する立場のときには少し言及があったんですけども、教科書選定という立場で、経験、年数、背景等が様々な実態の先生が初年度35時間遂行するというようなことについてどうお考えですか。

<中学校 道徳調査・研究委員長> 1点目については、先生にご指摘いただいたように12-2と12-3については、委員で項目を少し整理してゴシック体で示したところを書いてあります。この視点で各社を比較しました。

2点目の初年度35時間遂行することについてですが、道徳の経験もほとんどない中で、教壇に立てられる1年目の先生もいます。逆にベテランの先生方の中には自分の道徳教育、授業はこういうものだ、かくあるべきだと考えられる先生方もいます。そんな点も踏まえて先ほど申しあげましたけれども、中学校の場合は学年会のようなところで先生方も十分考えたり、議論したりしていただきたいと思います。例えば、教科書をベースにしなが、発問が3つ示されているけれど、うちの学年でいけばこんな発問がクラスの子どもたちの実態、つまり発達段階や地域性なども含めて、適しているのではないか。終末の発問を、このように変えたらどうか。そのような検討をしていただきながら、授業づくりをしていただきたいと考えています。あとは、指導書のところで補っていただくということになります。

<委員> 質問ですが、最終的に4つ残った会社名が3つまで聞き取れたのですが、もう一度お願いします。4つの中から最終2つが残ったのがどこの会社か教えていただきたい。

<中学校 道徳調査・研究委員長> 12-2のところでも本当に単純に◎の数でという示し方で大変恐縮ですが、委員が5名おられて、満場一致でよいと考えたのが「光村図書」です。2番手が「東京書籍」です。3番手が「日本文教出版」。4番手が「日本教科書」と「学校図書」で2社悩みましたが、先ほどの説明では「学校図書」と言いました。付属の道徳ノートを作成しているかどうかについてはあまり重視しない方向であることを踏まえ、「東京書籍」と「学校図書」と「光村図書」の中で最終的に「光村図書」を選ばせていただきました。このような経過ですが、よろしいでしょうか。

<委員> 結論も尊重したいと思いますが、この地区の小学校の「道徳」の教科書の採択が「東京書籍」ですよね。全県的に12採択地区あるうちの7地区くらいは「光村図書」でした。「東京書籍」は3地区くらいで、あと1社、1社だったと思いますが、この地区は小学校では「東京書籍」を採択した。それで中学校は「光村図書」ということですね。小学校の「道徳」の教科書を使用するのは1年だと思えますが、次期改定が迫っているのですけれども。小学校が「東京書籍」で、中学校が「光村図書」。この関連性については、直接は関連がないと思いますが、間接的には考えたと思うのですよね。もし考えたとしたら、どういう見解をお持ちか教えていただきたい。

<中学校 道徳調査・研究委員長> 小学校で「東京書籍」を採択して実際に先生方がお使いになられていますので良さを聞いたりもしましたが、良く考えてみるとこれまでの道徳の授業も内容項目を大切にしながら、ある時は「わたしの築くみちるべ」の資料を使ったり、学校によっては本校のようにあかつき社の副教材を使っているというところもあります。人権同和教育の視点で「あけぼの」を活用した道徳の授業もあります。つまり、資料については、本時ねらいとする道徳的価値を大切にしていくということで、どのような資料を使うかということは幅広く考えればいいのかと考えます。小中関連づけた場合、使い勝手がよいとか、先生方が指導書を扱いやすいとかそういった視点で考えた場合は同じものがあるだろうという話題にもなりましたが、最後は繰り返しになりますが、小学生の発達段階から子ども達に適していると思われる教科書が選ばれ、中学校の場合は、発問を重視しました。中学生に考えさせたい発問が、自分とのかかわりや多面的に考えられる発問であるかが吟味され、その発問例が教科書に示されているものがよいという判断に至りました。

<委員> 私はできれば副担任になっている先生方にも自分の副担任のクラスの道徳の授業をやってほしいな。それでみんなが1つの教科書に関わって、先ほど学年会というお話もありましたが、そういうところも通してやってほしいなと思っている。それぞれの先生に価値の捉え方があるかもしれないが、

子どもに軸足が動けば「このクラスの子も達がこういう力を身につけたいよね」という願いがあれば、それを軸にして授業を展開できるのではないかと聞いていました。教科書とは関係ないかもしれないが、ぜひ「光村図書」の教科書を使って、できるだけ多くの先生に資料提供、授業提供を広げてほしいな、と思います。その中から、新たな課題が出てくるのではないかと聞いています。今そのようなことをお願いしたいと思って、お話をさせていただきました。

もう1つ。12-2の2(3)で、先ほど話題になりましたが、私が確認できていないんですけれども、「光村図書」の流れの中で(3)の中で「光村図書」が◎で「学研」が△、それ以外が○となっていますが、この表からするとこれが一番の決定打になっているのかなと、調査表の表からすると決定打になっているのかなと思いますが、この中で特に「光村図書」を強調する◎になっている部分について強調できる部分とは何か持っていますか。

<中学校 道徳調査・研究委員長> 今2点ご質問がありましたけれど、2点目の方からお話したいと思います。「光村図書」ですが、3つの発問例のどこを中心に据えて考えていくか、見方を広げたい時に、途中で別の発問をしてみんな子ども達に立ち止まって考えさせよう、というようなことを学年会で検討するとき、それぞれの先生方の思いが強く反映するような発問例が示されています。その方が先生方が検討しやすいのではないかと思います。逆に発問例が1つになってしまうと「じゃあこれどうよ」というふうになってしまうことも考えられますし、なおかつ見方を変えてというのが道徳の授業の多面的・多角的に広げていくという視点で、この発問で子ども達に違う視点で考えさせていけたらいいのかなという点では、発問の質という点につきまして、今回レポートを作ってくださいました先生方、全ての先生が「光村図書」がとてもよいという結論でした。

1点目の副担任の先生の授業について、こちらもよく話題になりますが、基本的には副担任の先生に授業をしていただいてもよいと思いますが、やはり学級担任はサブで入り、生徒たちの様子を見るのが望ましいと思います。例えば「私が社会科の教員で、副担任が音楽の教員だった」場合、音楽家のリストに関わる教材だった場合、音楽の先生にエピソードを話していただいたり、授業を進めていただいたりする場面があったりとか、実際にピアノを弾いてくださったりすると、授業の幅も広がるのではないかと思います。担任も普段は黒板の前で授業をしていますが、違う視点でこの子は普段このようなことを考えていたのだとか、さっきの記述を消して今書き直したとか、担任が普段見えないところを観察することができ、評価の視点が広がるといった点において、副担任の先生に授業をしていただくこともよいと思います。ただ、副担任の先生に授業をしていただいて、担任が後ろで生活記録を見ているとか、ノートの丸付けをすとか、そういうふうになってしまうと違うかなと思います。先生のおっしゃっている視点とずれてしまっていたらいいかもしれませんが、複数の目で評価していくという視点で副担任の先生が授業をしていただくことはよいと思います。

<委員> 2(3)でいまお話をお聞きして、ここに1年生の教科書があるんですが、同じ共通した教材を発問のところを比べてだけでも先生がおっしゃった「光村図書」の教科書にあるいくつかの視点からの発問の設定ということで非常に優れているということは感じ取れます。ぜひ、そこを強調していただくといいと思います。それと逆のことになると思うんですが、2(4)の問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習、多面的、多角的に考えることができると書いてあることについては、逆に「東京書籍」の方が優れているというようなふうに印がされている。このところについてはどのように「東京書籍」が優れている、差異がそんなにないのだと思うんですが、総合的に見ても強調してくださった発問の質とかそういったことの方が選定にあたって重要なことなんだということになると思うんですが、その辺をはっきりとお話ししていただければお話していただきたいというのが1つです。

もう1つは、教科書の形が違うんですね。「東京書籍」のものはこういうのは何版と言えばいいのかかわからないんですが、これは通常のB版だと思うんですが、こういうふうにすると、これだけはみ出すんですが、これだけが大きいということですが、大きいと中身の字が多少「東京書籍」の方が見やすい感じはしますが、中学生が扱うときに、これくらい違うと扱いやすさも違ってくるのかなというところが議論になったかどうかとも教えてほしい。

<中学校 道徳調査・研究委員長> 今の2点につきまして、「東京書籍」は小学校のときに話題になったかもしれませんが、ちょっとした工夫がとてもよいのです。例えば心情円というのがあるんですけど、教科書の最後にふろくがついておりまして、自分の今の心を円グラフで表すことができます。2つを切り取って小さくして重ねて、自分が「行きたい気持ちが20%で、行きたくない気持ちが80%」というように表すことができます。それで、1時間話し合った後に、40%に増えたとか心の変化を示すことができる、ということなのです。または、他にもホワイトボードがついていて、書き込んだり消したりできるようになっており、水性ペンで書くと消して何度も書き込めるので、グループ学習に使ってほしいなど。そういったところが、現場の声をきいて考えたり、議論したりするツールを様々な形で工夫しています。発問内容で勝負というところと、ツールやアイテムを活用して話し合い活動を充実させようというところなどに、2社の違いがあるのかなとも思います。

あと私個人的には、合理的配慮というか、ユニバーサルデザインの視点からよいと思ったのが、今日の道徳の授業で一体何をやるのかというときに最初の発問は非常に大事になりますが、例えば「教育出版」の最初のつぶやきの欄には「環境を保護するためなら、生活が不便なままでもがまんでできるのだろうか」というような、導入場面での問いが全て示されています。また、私はいつも「いいな」と思っていたのですが、小学校などでは登場人物が増えてくると人物を整理できない児童もたくさんいます。「日本文教出版」などは、導入のところに登場人物がイラストで整理されていて、今日のお話は「五月の風」ですよ。または「最後のパートナー」ですよとタイトルを示した後、このお話には西田深雪さんと引退した盲導犬が出てきますよなどと、最初にキャラクターを整理して物語に入っていくことができます。これらは小学校ではよくやっているのですが、中学校でも支援の必要な生徒さんには効果的だと思います。

サイズについてですが、これは先生がおっしゃるようにA4版で小学校の教科書はこのサイズなのですが、このタイプはA4のままB5のサイズに縦の長さをカットしたものになります。中学校の教科書も、このA4サイズのままにしたのは「学研」だけで、あとは全部コンパクトにしてあると思います。子ども達にとって「学研」が大きくて、余白もあっていいかなと思う部分と、字のサイズが大きいわけでもないの、そういうところまで考えると、子ども達の使い勝手としては他の教科書と同じように手に持ち歩けたり、家でもおうちの方と読んだりできる、このサイズの方が使いやすいのではないかと思います。我々の中では、そのような話になりました。

<委員> 道徳では評価が問題になっていて、小学校のときに「東京書籍」にしたポイントというのが、本当に小さな評価欄があったので、それを継続して先生方が1年間通して読むことで評価ができるというところが大きなポイントだったんです。「光村図書」の場合の評価は、どういうふうにするのかというところを教えてください。

<中学校 道徳調査・研究委員長> 先程少しご紹介しましたが、学習カードに評価欄があったとしたら、これを35時間蓄えていったのを先生方が見て「本当に評価できるのか」ということも考えました。中学生にとって、学習カードを大事にするとすれば、そこに何が書かれているのかを重視しました。そうするとやはり発問にかえていくことになります。子ども達が自分との関わりについて考えることができていたのか、多面的・多角的な考え方ができていたのかとか。やはり発問の質が良くなければ、それに対応した答えを整理することも子ども達にはできないのではないかとということで、多様な発問の中から子ども達の実態にあったものを、学習カードを作成しながら用意して、示していき、書かれた内容を先生方が積み重ねて子どもの学習状況や成長の様子を評価していく。中学生は、子どもの思いを読み取って、それを評価していけばいいのかなと思います。学習カードのこのような工夫は、それぞれの学校で自己評価みたいな形で是非工夫していただけたらいいなと思いますし、我々も発信していきたいと思っています。

<委員> 私は先生の説明に大変共感できる部分があって、その1つが8社あって、信教の立場では資料という形で言いたいのですが、同じ教材という立場で言うと「二通の手紙」の発問を比べた、発問の質でということ、1番大事なポイントだと私は思うんですね。そこを重視してくれたことが私は良かったと思います。そうすると逆に教材、本文、挿絵や写真を除いた部分で、中学生なので本文の質を上

げていくというのを12-2の表で見ると、どこの部分で評価できるかとなると、配列は1年通して内容項目の各社35項目の配列をしていると思います。主観的な部分で非常に難しいと思うんですが、「二通の手紙」とかどの会社もいいと思ったから載せたと思うんですが、本当にいいかは別として、評価される本文、いいと思われる本文教材、資料の良さがあるのは、どこなのか教えてください。

<中学校 道徳調査・研究委員長> 傾向としては、3番の(2)、(3)辺りの地域の実態とか現代的な課題とかというのを大切にしようとしている教科書があります。また、資料の定番という言葉が適しているかどうかわかりませんが、名作と言われる今まで大切にされてきた資料を前面に出している教科書もあります。目新しいとか他の会社で扱わないような著名人とか、子どもの興味関心を引くような人物を取り入れた教科書もあります。大切なのは、その人物から何を学ばせたいのかが明確であることです。定番教材でどっしりと作られているものや、いろいろ目先を変えて新しい視点で子ども達に考えさせたい内容を広げているものなどがあります。比較してみると、そのような感じです。

<委員> もう1つ、説明を聞いていてよかったと思ったのが、ノートや学習カードがついていることを重要視しなかったというのは、発達段階に応じて中学生だからというのが非常に良かったと思います。道徳の授業というのは見た瞬間に「今日は何を答えたら、先生がいい顔してくれるかな」というのが分かっちゃって、そういうふうになるとまずいということで、そういう視点で考えていただいたと思うので、私はその視点も大変良かったと思っています。

<委員> 今の意見に関連して、22項目8社のを全部1年から3年までを読み比べて検討されたと思うんですけども、なかなか大変だったろうと思います。それで先生ご自身が読まれて、先ほど例に挙げた成田さんの生き方について12-3の3(3)の先人・著名人などの思いに触れ、自らの生き方を考える資料とありますが、その資料で先生ご自身は「光村図書」の中で、「これはいいぞ」と思って子ども達にぜひ考えさせたいと思ったものはどれですか。

<中学校 道徳調査・研究委員長> 「光村図書」で言うと定番教材も多く、自信を持って発問で勝負するといった傾向の教科書なのかと感じます。いわゆる話題の人や、今タイムリーな人物の話を持ってきたりとかは傾向としてはあまりないのですが、「光村図書」の中でも学年によって何人かでていて、2年生では野球の広島カープの黒田さんがでていいます。ヤンキースへ行った広島の選手です。なので、学年で1人か2人くらい紹介しているので、どれかというとなかなか難しいですが、野球や部活動を頑張っている子どもたちにとっては、このような資料は興味がある内容かと思います。先生が事前に十分に資料や発問を吟味していただき、ただ読んでもらうのではなくて、何を考えさせたいのかを明確にすると、きっとよい授業になりますし、そういうものがないと新聞を読むのと同じになってしまって面白くないし、感想を書いて終わってしまうように思います。ご指摘いただいた点はとても大事な点だと思います。その方からどんなことを考えさせ、学ばせたいのかということが、著名人を教材にした場合は大事だと思います。

<委員> 実はそれを聞いたのは、私は今小学校へ支援へ入っていますが、1年生のあるクラスで、先生が「どうしても研究授業で研究主任だから授業に出かけなければならないので、留守の時間に何か話をしてほしい」というふうに前日に言われて、これはどうしようかと思って、図書館から本を2冊借りてきて、大村智さんの生き方の話をしました。そうしたら、子どもが世のため人のために生きるんだよっておばあちゃんに言われたってということと、彼は失敗しても失敗しても頑張って寄生虫に対する薬を発見するんだってという強い熱意、そしてアフリカの人間にも応用できて、2億人に対し1回飲んだだけで効く薬を発見したんだってという話を、彼の苦労とともに1時間、本の中の写真を見せたりしながら子ども達に「こういう時は、どうする？」という話をしていたら、いつでもふらふらしているような子が最後に「ああ、面白かった」と言ったんですよ。「今日の話は、面白かった」と言ったので、何か心に響くものがあったのかなと私は思ったのです。初めに「今、あなたたちは1番の人間の生き方の土台をつくっているんだよ。小学校1、2年が土台でとっても大事なんだよ。土台がしっかりしていないと立派な家を建ててもすぐに大風に飛ばされてしまったりするから、土台は大事なんだよ」と話してから、大村さんの話をしたら、たとえ小学校1年生でも人間の生き方の話を良く聞いてくれたなと感じました。

何か書かせたりはしませんでしたし、感想の発表もしませんでした。いつも聞いてないような子が、とてもよく聞いてくれたのが私は印象に残っています。そうしたらその先生が、自分にその本を貸して

ほしいと言ってきて、その先生に本を貸しているのだけれども、そのようなことがありまして、やっぱり担任がこういう話をしたいとかこの生き方を学ばせたいという思いにぴったり合うような題材が豊富に入っているような教科書が「光村図書」ということですね。

もちろん、そのほかにもいじめの問題とかいろいろあるんですけど、それだけではなくて、私たちが小学校のころは野口英世とか、シュバイツァーだとか、そういうのを勉強した記憶がありますが、今のこの時代に生きている人で、さっきの成田さんみたいに頑張っているとか、先生が一番感動している、こういう生き方を学ばせたいとか、いじめに対しても何に対しても、資料として「光村図書」が一番適切ということですね。

<中学校 道徳調査・研究委員長> そのように考えていただいてよろしいかと思います。

<会長> 今のお話のように有益・適切な教材については、その教科書以外のものを使ってもよいと文部科学省が言っていますが、これについては、実は学校長に判断を仰がなければならないということと、年間の道徳の指導計画の中にきちんと位置づいているかということが大事であって、担任がやたらと持ってきて位置づけるのはいけないというふうに文部科学省は指導しています。そういう意味においても、「光村図書」のところに信教の教材が入っているというのは嬉しいことで、有益・適切などころを入れてもらったというふうに私は感じています。時間になりました。発表ありがとうございました。

<委員> 最後に1つお伺いしたいのですが、今日小学校の教科書から中学校の教科書までやってきて、自分は現場から随分離れてしまって10年くらい経つのですが、この12-2の表を見た時に先生方の主観の違いというところがありましたけれども、△がついているんですね。◎、○、△の評価で、前半の小学校の教科書の評価には△が1つも入っていなかったんですね。△を付けるという委員の中で何ができなかったのかについて、どこかでいいので教えていただきたいです。私も道徳教育で大変苦労していたので。

<中学校 道徳調査・研究委員長> では、1番説明しやすいものと、ノートを使って評価をするかしないかという点では、ノートを使ってやろうとしているところや記述欄が、評価に関して教科書が意識されているかどうかという点です。そのためにノートを使わないとすれば、このなかにどういう工夫をして記述させようとしているか、記述欄をどう生かそうとしているか。そういう視点で見させていただいたときに、少し工夫が必要だと思ったところには△を付けているというような感じです。先生のおっしゃる通り、本当に△でいいのかという意見もありましたが、はっきりしておいた方が選考する上でわかりやすいということもありまして、△をつけさせていただきました。8社ありましたが、どの教科書にもそれぞれ素晴らしさがあり、決してその項目が劣っているという意味ではございません。

<委員> たまたま最後になってしまったんですが、3(3)の現代的な課題など物事を多面的・多角的に捉えているという点で4番目に選ばれた「学校図書」が△がついていて、教材の中身はわからないのですが、その辺に△がつくというのは文部科学省との絡みもあり、理由があったら教えてほしいというのがありまして聞いてみました。

<中学校 道徳調査・研究委員長> ユニット教材というのがありまして、今回は何社かが力を入れて取り入れています。1時間授業では終わらずに、こういう資料を基に次の時間ではこのことについて考えましょうというもので、ユニットで2、3時間扱いで「いじめ」について考えると、現代的な課題「いのち」であるとか、そういうふうに工夫されている教科書もいくつかありました。ユニットというと、実は「東京書籍」などはそれを教科書づくりのポイントの1つにしており、他にもユニットという言葉は使っていないけれどもそういうふうにちゃんと意識されて1つの教材について2、3時間の扱いで授業づくりを考えている教科書もありました。今まで通り1時間ずつでやっているところは、その点について少し評価を下げてしまった部分もあるかと思います。

<会長> それでは、時間も過ぎておりますので選定に入ります。中学校の「道徳」について「光村図書」の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いいたします。

全員挙手

<会長> ありがとうございました。賛成多数と認められますので、中学の「道徳」につきましては「光村図書」の教科書を選定することといたしました。今日はありがとうございました。

<会長> 皆様の御協力により、無事、小学校用教科書と中学校の道徳の教科書について議事が終了いたしました。ありがとうございました。

以上で上小地区において平成31年度から使用する小学校教科書及び中学校道徳の教科書についての選定が終了しました。

調査研究委員長さん、また本日はおいでになりませんが、各委員の皆さんにおかれましては、お忙しい中短い期間の間に十分な調査研究を行っていただき、大変お疲れさまでした。改めて感謝申し上げます。

なお、平成31年度から使用する小学校教科書及び中学校道徳の教科書につきましては、近日中に、各市町村教育委員会に選定内容を通知いたしますので、それぞれの教育委員会において採択をお願いいたします。

<幹事長> ありがとうございました。委員の皆様、本日は大変お疲れさまでした。

以上で、第二回上小地区小中学校教科用図書採択研究協議会を終了いたします。本日はお忙しいところ誠にありがとうございました。

4 閉会